

# 国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
経済学研究科	経済学専攻	ヨーロッパ思想史研究	不可

自由という語は様々な意味をもつ。その派生語である自由意志、自由主義、新自由主義、リベラル、リベラリズム、リバタリアニズムなどは、それぞれ全く異なった定義がされる。それでは、そもそも自由という概念の根幹は何なのか。なぜそこからこれ程に異なる自由の主張が生まれ得たのか。そして自由の可能性、限界、困難はどこにあるのか。

このことについて、あなたの考えを2,000字程度で述べなさい。

# 令和8年度 国士舘大学大学院入学試験

## 出題の意図と採点のポイント

研究科名	経済学研究科 経済学専攻
試験期別	I期
試験区分	一般選考
試験科目名	ヨーロッパ思想史研究

### ■出題の意図

ヨーロッパ思想史・哲学史において極めて重要な概念である「自由」について問う。「自由」は日常生活においても、法制度や経済の仕組みにおいても頻繁に用いられると同時に、非常に多義的になっており、まったく異なる意味を含んでいる。たとえば、政治的文化的なレベルでの「リベラル」な考え方と経済における「リベラル」な考え方は根は同じでもそこから提唱される具体的な政策は異質なものとなる。

試験では、このように多義性、異質性、曖昧さを含みながら多用されている「自由」概念を根本的に考え直すことを求め、受験者がどの程度真摯に、政治・社会・経済を観察し、安易な言説に惑わされずに自分自身の頭で考えようとしているかを見させてもらう。

### ■採点のポイント

・「自由」というありふれた言葉について、受験者がどれほど異なった意味を区別しているか。特に、政治・社会的自由概念と経済的自由概念、そして内面における自己決定の自由の違いが区別できているか。

・「自由」の可能性とその困難についてどの程度深い問題意識を抱いているか。

・流布する通説などに安易に依拠するのではなく、ものごとを自分の頭で考え、自分の言葉で語るということがどの程度できるか。

・特に思想史上の知識は問わないが、適切に取り入れていれば加点する。